



教祖 140 年祭へ 心合わせ神名を唱える



9月15日祭典後、神名流し

ひきよせ

発行所
 天理教夕張大教会
 〒068-0029 北海道
 岩見沢市9条西6丁目21
 ☎ 0126-22-1248
 FAX 0126-23-7275
 yubaridai146@gmail.com
 ホームページ
 bariten.main.jp



LINE 友達登録
 お願いします

夕張大教会五代会長 藤田文雄先生一年祭

祭主 松田理治先生 お話



この場に居合わせる誰しもが、1年という時の流れの速さに驚かれています。昨年、今年、即ち8月30日、関西地方には台風が迫っていました。前会長様がお亡くなりになったという報せを受け、今ならまだ飛行機が飛ぶけれども、翌日はほぼ欠航になるだろうという予測から、着の身着のまま、その日のうちに慌ただしく大教会に入ったことを、今も尚忘れることができません。

この挨拶の下書きをしていた時、私は、前会長様のお魂は今、果たしてどこにいらっしゃるのだろうかと考えていました。天理教では「身ばかりもの、心一つが我がもの（おさしづ 明治22年2月14日）」と教えられます。私たち人間一人ひとりの身体は親神様から借りているものであり、心のみが自分の

ものである、という意味です。親神様からすれば、我々人間に身体を貸して下さっていることになり、これを「かしの・かりもの」の教理と呼びます。ですので、人生を終えるに際して、これまでお借りしてきた身体を親神様にお返しする、という言い方をしたりします。

また本教では亡くなることを、「出直し」とも教えられます。いつの日にか生まれ変わるからです。親神様が人間をお創りくださって

(次ページへ続く)

お知らせ

本部祖霊殿合祀祭
 藤田文雄前会長合祀
 月次祭 新穀感謝祭
 秋季霊祭 月次祭終了後
 冬のお楽しみ会

10月24日(金) 12時より
 11月15日(土) 9時半より
 23日(日)

います。前会長様もいづれご本人にとつて近いところの生まれであるのでしよう。その世界においても美重子奥様とお会いになり、お子様をもうけられ、この場の皆様とともに学んだり、仕事をしたり、あるいは遊んだり、さらには神様の御用を務めたりすることでしょう。

その時は陽気ぐらしはどこまで進んでいるでしょうか。争いも疫病もなくなっているのでしょうか。北海道の気候はどれほど変化しているのでしょうか。北海道からおぢばまでの距離はいかほど近くなっているのでしょうか。その時はどんな名前を名乗っているのでしょうか。前会長様が再びこの世に出てこれられるのは何十年、何百年も先のこともかもしれません。意外と比較的近い未来のことかもしれません。こうしたことも親神様にお委ねすることであるように考えますので、私たちは今を真剣に生き抜くことが大切です。

先程触れました、「親が子となり、子が親となり、家は末代続く理」というくだりは、実は別席台本のおしまいに出てくるも



のです。そして、このように続きます。「銘々によく理を聴き分けて所々の手本となりて、口では人の悪しきは言わんよう、日々誠の理を以て話し合い、身の行いを正しくして、人から見ても、ほんに誠の人じゃ、と言われるよう将来お通り下されませ。話だけはお伝え申します。」

別席は、これからおさづけの理を頂きよふぼくとなる人々に対して、心定めをしてもらうためのお話です。殊にこの箇所は、最後の最後に念を押ししてお諭しくださっているように、私は考えています。

この場の多くの方々、よふぼくであるうと思えます。皆様には、来年1月26日に教祖140年祭が執り行われるにあたり、それまでに至る三年千日の間、それぞれの持ち場立場において真剣に道の上にお働きくださいました。教祖年祭まで残すところあと5ヶ月です。御存命の教祖にご安心いただけるよう、今一度初心を思い返してお通じくださいますようお願い申し上げます。加えて、教祖のひながたを辿ることによって自身も人々の手本となることのできるよう、お互い通らせていただきましょう。

また、年祭が終われば、2027年、大



教会として創立130周年の節目の年を迎えるに聞き及んでいます。大教会の主たる方々には、これまで同様に誠の心をもって話し合いを重ね、物事を進めてくださいますようお願い申し上げます。

今日お集まりの皆様方には、前会長様の一年祭にご参拝くださりまして、重ねてお礼を申し上げます。どうぞこれからも前会長様から現会長に引き継がれた大教会をより一層盛り立ててくださいますよう希望し、挨拶としたいと存じます。

ご清聴ありがとうございました。



前会長一年祭のお礼



お陰様で、8月30日の命日に、父藤田文雄の一年祭を無事勤め終える事が出来ました。ご尽力下さいました皆様方に心よりお礼申し上げます。有難うございました。又この度の偲び草として追悼文集「貴方への手紙」を上梓致しましたが、これも編纂委員会の皆様のお力無くしては叶いませんでした。父の御霊もお喜びの事と存じます。私は、自分が父と同じ様に、よふぼくとして働ける喜びを益々感じております。

生かされている身体が有難く、親神様のおたすけにお使い頂ける事を幸せに感じて、三年千日の年祭活動を最後まで勤め通らせて頂きたいと思えます。

いよいよ来年は、私達皆の魂のお母さんであります、ご教祖中山みき様の百四十年祭の年を迎えますので、夕張の理に繋がるきようだいたい一同、おちばへ帰って、ご存命のおやさまに「ただいま帰りました。今日も世界のおたすけにお働き下さいまして有難うございます」とお礼を申し上げたいと存じます。

おやさまのご苦勞を思い、真面目に真実の心の種を蒔いて、私共の願いは声に出さずとも親神様がお受け取り下さり、丁度良

いご守護をお見せ下さるものと信じています。「先の事は何も心配いらぬ。」と、父も、又おやさまも言ってお下さっているような気がします。

来年は、皆様のごぞつておちばへ帰る事が出来る一年になります様、願っております。大教会長 藤田大和

九月月次祭の様

9月に入つて、道内は厳しい暑さからはようやく解放され、秋めいた空気を感ずる日が多くなつてきた。時折降る雨が少しづつ気温を下げ、酷暑に苦しんだ今年の道民を癒すような風が吹くようになった。迎えた15日は、前日の強い雨は上がつて、少し暑さを感じる日となった。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。祝日ということもあり、少年会員を含め、多くの参拝者が賑わっていた。

講話には富山知一役員が壇上に上がり、「先月までおちばに務めていた頃とは打つて変わり、北海道の朝晩は肌寒く、いよいよ寒空となつてきました。この三年千日の最終年、皆様はいかがお過ごしでしょうか。残りを数えると約100日。残り十分の一、九合目まで来ているこの時、少し早いですか、



これまでの年祭活動を振り返り、残りの日々を勇んで通るための思案をお話しさせていただきます。

振り返ると、2023年(立教186年)10月26日の真柱様のお言葉では、『教祖は諦めることなく、五十年の間、様々な苦勞の中を親神様の思召のままに歩まれ、ひながたをお示し下さり、私達を陽気ぐらしへとお導きくださった』と説かれました。

また、諭達第四号には、『よふぼく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切つて成人の歩みを進めることが、教祖年祭を勤める意義である』とあります。私達は教祖の道具衆として、教祖のお心に溶け込み、素直に実行し、たすけ一条に励むことが使命であることを改めて確認し合いたいと思います。教えを実行するようになるまで、辛抱強く心をかけていくことの大切さも示していただきました。

さらに、2024年(立教187年)10月26日の真柱様のお言葉では、元旦の能登での地震や、その後の豪雨による被害に触れられました。天災を『月日のざねんりいふく』と教えられていることは、この道を通るお互いの心の成人の鈍さに対する厳しいお仕込みであり、どの点をお知らせいただいているのか思案し、気づいたところを改めて歩もうとのお言葉でした。

二度までも厳しい姿を見せられたのは、『私たちの年祭に対する取り組みが、思召にお応えするにはまだまだだ』ということだと受け止められました。そして、『道の子が一手一つになつて力強く歩むまでには、もっとたくさんのよふぼくが年祭に心を向け、

働きかけ、丹精を続けなければ教祖に安心してはいただけぬ』と強調されました。

真柱様は、『三年千日の期間は、動かせていただくことが大切であります。一生懸命取り組んで、年祭の当日を嬉しい心で迎えることができるように、残りの日々を勇み心を奮い起こしてお通りくださるよう』と締めくくられました。

私自身の三年千日は、心定めをすると同じ時に、栗山の五代会長の出直しと共に始まったような形です。これまで父に頼っていた私でしたが、相談相手を失い、『どうしたら父親が喜んでくれるだろうか』という思いを胸に歩み始めました。

その思案から、これまで断り続けていた様々なお役も、父ならきつと『受ける』と言ってくれる、と考え直し、断らずに引き受け、今ある役割を懸命に通らせていただいています。おかげさまで、多くの方からお声がけをいただき、残り100日となりましたが、懸命に通らせていただいております。

皆様も心定めを完遂できるか、まだ足りないと思つているか、それぞれの心持ちがあるでしょう。私は、残りの100日を、『父が、前会長さんが喜んでくれること、それが教祖が喜んでくださることにつながる』という思いを胸に、勇んで通らせていただきたいと思つております』と話した。

祭典終了後、全教会布教推進月間における、にをいげ実動として、国道前と町内組に分かれ、神名流しが行われた。少年会員を合わせて、総勢56名が岩見沢の街に、高らかに神名を唱え、勇んだ陽気なよろづよ八首の音色を遠くまで響かせていた。

婦人会 みちのだい育み塾

9月23日(火、祝)夕張大教会にてみちのだい育み塾を開催し、対象者6名、婦人会員10名、少年会員4名、男性2名、合計22名にご参加頂きました。

座りづとめをつとめた後、支部長より話の後、講師に夕張大教会祭儀部副部長千葉祐生先生をお迎えしておてふりの勉強会をさせて頂きました。「知らず知らずについた癖に気づけた」「合わせる心の大切さを再確認出来た」「沢山の学びがあった」等、喜びの声を頂きました。その後、閉講式、全員での集合写真、最後はゆっくり昼食を楽しみました。

その中で「毎回、どんなメニューか楽しみです」「作らなくても食べられるのが本当に嬉しい」等の声



に炊事、託児ひのきしんの婦人会の方もやり甲斐を感じ、またそれ以上にひのきしんの方々にとても楽しみながら自らも育つ場となっていると感じています。

「みちのだい育み塾」では、来年に向け新たに対象者の中からスタッフメンバーをお願いして、より対象者に寄り添った形で活動を行っていきたいと思っています。

これからも、皆様の御協力をお願い致します。

支部長 藤田美由紀



青年会キャンプ 笑顔とつながり広がる三日間

9月6〜7日、祝梅分教会を会場に青年会キャンプを開催しました。参加者は会員8名、OBを含む会員外16名の計24名。少年会員も多く参加し、にぎやかな二日間となりました。

初日は晴天に恵まれ、教会前での神名流しを皮切りに、芝生でのキャンプや遊びの時間を楽しませ



した。祝梅分教会若人会からアウトドア用品をお借りし、BBQや燻製づくりにも挑戦。夜は花火を行い、夏の終わりを感ずるひとときとなりました。

翌日、朝づとめ参拝の後、雨に

庶務部 9月

- ▽修養科第一〇一二期 富本 菜摘(祝豊) 10・1
- ▽教人資格講習会 竹田 愛(馬追) 9・27
- ▽おさづけの理拝戴 渡部 勇治(善進道) 10・3
- ▽詰所ひのきしん 梶川 芳史(新生生) 9・23
- ▽おまもり 1件
- ▽をびや 2件
- ▽詰所教養掛 9月 渡部 辰大(善進道)
- 10月 竹田 元(馬追)



9月25日 定例回廊ひのきしん

打たれつつ、片付けをして解散。無事に終えることができ、多くの参加者から楽しかった、との声をいただきました。

今回の行事は総会後の会話から生まれた初の試みでしたが、教会の皆様のご協力により実現しました。来年度も開催を予定していますので、ぜひご参加ください。晴れ男の方、大歓迎です。

委員長 高橋悟志

大教会日誌抄 9月

- 1日 たすけ推進会議
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 祭典後、神名流し(56名参加)
- 19日 会長、札美月次祭
- 20日 鼓笛練習
- 23日 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 25日 会長夫人、おちばへ
- 26日 本部月次祭、遥拝式
- 27日 本部長、かなめ会
- 会長夫人、本部婦人会例会
- 28日 会長夫妻、帰会
- 29日 全教一斉にをいがけデー
- 30日

にをいがけ実動について

- ◇活動報告
- 日時.. 9月30日 10時〜15時
- 場所.. 夕張大教会
- 参加人数.. 6名
- ◆次回以降実施予定
- 10月30日 10時〜15時
- 11月30日 10時〜15時
- 集合場所.. 夕張大教会



9月20日 鼓笛練習 6名参加